

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671500241		
法人名	医療法人緑風会		
事業所名	グループホーム成長苑		
所在地	徳島県板野郡藍住町勝瑞字成長55-1		
自己評価作成日	平成24年5月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成24年9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族的な雰囲気の中、利用者のケアや体調の管理に配慮している。職員の変動も少ない。協力医療機関の医師や看護師との連携により、24時間の医療体制を構築している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、菜園や植木、休憩所等を整備しており庭も広い。また、頻りに近隣のスーパーや小学校・神社等へ出かけている。母体法人の運営する医療機関と密に連携を図って、利用者や家族の安心・安全を支援している。管理者と職員は、事業所独自の理念について機会あるごとに話しあったり、自ら振り返ったりして、日ごろの支援に取り組んでいる。職員は、“利用者にとって、職員の優しい笑顔が何よりも大切である”との思いで、生活環境を調整し、お互いを思いやりつつ、つねに全職員が笑顔で働くことができるよう心がけている。利用者は落ち着いた穏やかな表情で過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			第1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所が目指すサービスのあり方をあらわした事業所の理念を示し、実践している。具体的な援助方法を話しあって実践している。	事業所独自の理念を作成している。機会あるごとに全職員で確認しあって共有し、利用者が穏やかに笑顔で過ごすことができるような支援に繋げている。職員は、理念をよく理解するよう努めており、地域密着型サービスの目的と事業所の理念を踏まえ、日ごろの支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域と利用者がつながり合いながら暮らせるよう、田植えの見学やボランティアの歌謡ショーなどの地域行事に参加している。	地域主催の運動会や幼稚園・小学校の行事に参加して交流を楽しんでいる。また、散歩をしたり、日々の通院への往復、待合室での交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の実践経験を生かし地域におけるケアの拠点として、介護職員基礎研修施設として受講生を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者や外部の人々など会議メンバーと情報交換、率直な意見をもらっている。	運営推進会議には、多数の利用者や民生委員、地域包括支援センター、職員が出席している。会議では、参加者が相互に意見交換を行っており、学びを深める場となっているが、議題が限られている。	運営推進会議は、事業所の運営等について様々な方と話しあうことのできる機会であることから、今後、さらに良いサービスの提供に向け、評価への取り組み状況の検討等も含めた幅広い議題を設けるとともに、なるべく多くの参加者が得られるような工夫に期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	保険者である市町村担当者とは報告や事故等の報告も行っている。事業所として協力関係を築くようしている。	毎月、入居状況や事故等に関する報告を行っている。また、要介護認定の申請時に、町担当者を訪問し連携を図るよう心がけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員が身体拘束の弊害を理解して身体拘束を行っていない。	身体拘束の具体的な行為や弊害に関するマニュアルを作成している。ミーティングの際、マニュアルを確認しあっている。また、勤務体制を工夫するなどして、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は高齢者虐待に関する研修を行い、報道され具定例なども周知報告し話し合う機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			第1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、管理者と職員は、日常自立支援事業や成年後見制度に関する必要性等について、関係者と話し合う機会を設けていない。今後の課題となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個々の立場に立って不安や疑問が残らないように説明している。十分に説明し納得が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族から意見を運営に取り入れ改善できるように来訪されたときに率直な意見を取り入れている。	家族の来訪時に意見交換を行っている。夜間にも面会できる仕組みを構築し、出された意見や要望を運営面に反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関して利用者の実情を直に知っている現場の職員の意見を聞いている。	管理者は、職員との信頼関係の構築に努めている。職員から出された意見や要望に耳を傾け、検討を重ねたり、工夫したりして運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者、職員の努力や実情に応じて賞与に反映したり、現場環境や能力向上などの支援に努めたりしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が働きながら必要な技術や知識が向上できるように全体的な勉強会や個々の指導に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、全国グループホーム協会に入会し、質の向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			第1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の気持ちや不安等に耳を傾けて、職員全体で気持ちの理解に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立ち、家族自身の声に耳を傾けて関係性をつくっている。家族の困っていることにも対応したいという気持ちを全職員で共有しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人家族の実情や要望をもとに、事業所としてできる限り安心納得しながら利用できるように、段階的支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護する人とされる人の関係でなく、一緒に過ごすという感覚をもって関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族が支援している、されているという一方的な関係でなく、本人と家族の橋渡しや、共に支え合う関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人やかつての隣人などが訪ねて来られたり、リハビリのためや診察のために通院して知り合いと会話したり、家族に会いに家に帰ったりして関係が途切れないようにしている。	職員は、家族や友人、隣人等が来訪しやすい雰囲気づくりに留意している。また、利用者の希望に応じて、行きつけのお店で買い物を楽しんだり、家族の協力を得たうえで自宅への外出や外泊等の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がともに助け合い利用者と職員が支え合えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			第1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退所しても、相談があればアドバイスできるように心掛けている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が一人ひとりの思いや意向に関心をもって把握しようと取り組んでいる。	事業所独自のアセスメントシートを用いて、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努め、全職員で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの思いや暮らし方の希望や意向の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の暮らしについて本人の総合的な状況を見落とさず職員間で共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は介護する側にとっての課題でなく本人がよりよく暮らすための課題やケアのあり方を考えている。変化に応じて現状に合うように見直している。	毎月、担当者会議を開催し、気づきや意見を出しあっている。関係者から情報を得たり、モニタリングを踏まえて検討したりして、現状に応じた介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の記録を介護職員が記入している。職員間で共有しさらに介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の家族の状況やその時々生じるニーズに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			第1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して生活を継続してもらえるように友人や近所の方の来苑、地域の運動会、老人会の鈴虫の巣づくりに参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	経営母体の森本医院には毎日密に連絡をとり健康状態を主治医に一人ひとり把握してもらっている。	利用者一人ひとりのかかりつけ医と連絡を密にとり、健康状態を把握してもらっている。利用者の希望する専門医の受診を支援する際、家族と相談したうえで利用者の状態に応じた対応に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常の関わりで気がついたことを看護師に相談したり主治医に相談したり、平日毎日通院し異常があれば診察を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院は心身にダメージをもたらすので、安心して早期に退院できるように関係者と情報交換している。また、お見舞いをかねて時々様子を職員や管理者が見に行くこともある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	“重度化した場合の指針について”母体である協力医院の主治医や看護師、事業所の職員や管理者が本人や家族の思いや意思に沿うように、安心した最期を迎えられるよう努めている。	重度化した場合の指針について、入居時に本人や家族、関係者と話しあって対応方針等を確認している。また、状態の変化に応じて関係者が連携し、利用者や家族が安心して過ごすことができるよう対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変した時には、常に健康状態を報告したり、主治医に診察してもらったり、適切に指示をもらえるような体制を構築している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害はいつおこるか予想できていないために利用者の状況を踏まえて避難誘導ができるように実践的な取り組みを行っている。	年2回、避難訓練を実施しており、消防署員から利用者を誘導する場所等について指示を得ている。法人の運営する複数の事業所間で連携体制を構築しており、地域の協力についても民生委員を通じて依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			第1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の情報収集や外部の情報の連携をする場合にも個人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように職員が常に話し合い、すべての職員が利用者の誇りやプライバシーを尊重するよう努めている。	職員は、誇りやプライバシーに関する研修を受講したり、話し合いを重ねたりして、利用者一人ひとりの人格を尊重した対応を心がけている。排泄時の誘導や介助時には特段の注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を実現できるように、職員が利用者の気持ちに気づけるように日頃から交流を親密にし、生活歴も把握し希望や思いに気づけるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合優先にならず、一人ひとりのペースを大切に、希望に沿って支援できるように体制を整え、全体行動が苦手な人や嫌がる人にも希望に沿えるよう耳を傾けるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みや家族がもってきてくれたものを自分でちゃんときれいな人には、介助しながら身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事には一人ひとりの好みもあるので苦手なものを家族や本人からお聞きしながら、また入居して食事介助等をし好みに気づくこともある。きぬさや、エンドウ豆などのすじ取りなど手伝えることはやってもらっている。	日ごろの食事は職員が準備している。利用者の好みを把握し調理方法を工夫している。利用者はできる範囲で食材の買い出しや野菜の下ごしらえ、味見等の役割を担っている。事業所では、食事が楽しみなものとなるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事量や水分摂取、排泄を日々チェックして体調やバランスに注意し、異常があれば病院に報告し指示をもらうようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアができない時は洗面所に誘導したり介助して口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			第1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿を日々チェックし個人の排尿排便を把握し、できるだけ声かけしたり、誘導したりしている。	排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。日中は、さりげないトイレ誘導を行い、夜間には必要に応じてポータブルトイレを準備するなど、トイレで気持ち良く排泄することができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな利用者が多いので食物繊維や乳製品、バナナなど果物を食事につけて出している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆっくりと入浴するのが好きな人は最期に十分時間をとって入浴介助している。	入浴の順番を配慮している。また、入浴を拒む利用者には、声かけを工夫するなどしている。週3回、入浴できる曜日や時間帯を決めているが、希望があれば水曜日以外は対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間はゆっくりと眠れるように日中は食堂や居間や中庭で楽しく過ごしてもらえるように支援している。また、一人で部屋で横になりたい方は無理強いをせずに休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬している薬や塗り薬の効能用途を理解し、処方の変更については全員が理解できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者にはなるべく自宅で生活していた時や以前から好きだった編み物や俳句などを続けることができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者一人ひとりのその日の希望に沿って野外に出かけるよう支援している。同一法人の運営する医療機関に行った際、多くの地域の方が利用者へ声をかけてくれる。	利用者は、庭の散歩やスーパーへの買い物、リハビリテーションのための通院等、日常的に外出を行っている。車椅子を利用している方も、日常的に戸外へ出かける機会が多い。また、初詣や花見、神社へのお参り等の外出も計画的に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			第1ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で預かれる金額で嗜好品を買ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族からの電話でやりとりする手伝いをしたり交流できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間である場所は刺激の強いようなものは避けている。季節の飾りつけなどで季節を感じてもらい、居心地良く過ごすことができるよう支援している。	玄関や廊下に鉢植えの花を設置している。壁面には、利用者の作品や写真を飾り、居心地良く過ごすことのできる空間をつくっている。食堂や居間は、明るくゆったりとした広さがある。椅子や畳の間も設置し、利用者一人ひとりが思い思いに過ごすことができるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では気の合う人と団欒を楽しんだり、一人で折り紙や編み物楽しんだりできるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自分の使い慣れたものをなるべく持って来れる人は持ってきていただいている。	利用者一人ひとりに好みの家具や電気製品等を持ち込んでもらっている。利用者にとって使いやすいよう配置したり、自分で動かしたりできるよう工夫している。また、利用者が趣味でつくった人形や折り紙等を飾っており、一人ひとりが居心地良く安心・安全に過ごすことができるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの能力に応じて手すりなど必要な場所に増設したりしている。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			第2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所が目指すサービスのあり方をあらわした事業所の理念を示し、実践している。具体的な援助方法を話しあって実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域と利用者がつながり合いながら暮らせるよう、田植えの見学やボランティアの歌謡ショーなどの地域行事に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の実践経験を生かし地域におけるケアの拠点として、介護職員基礎研修施設として受講生を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者や外部の人々など会議メンバーと情報交換、率直な意見をもらっている。(外出をしたいなど、意見が出ている)		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	保険者である市町村担当者とは報告や事故等の報告も行っている。連絡なども漏れずに行うようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員が身体拘束の弊害を理解して身体拘束を行っていない。玄関の施錠は深夜は行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は高齢者虐待に関する研修を行い、報道され具定例なども周知報告し話し合う機会を設けている。虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			第2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、管理者と職員は、日常自立支援事業や成年後見制度に関する必要性等について、関係者と話し合う機会を設けていない。今後の課題となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個々の立場に立って不安や疑問が残らないように説明している。十分に説明し納得が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族から意見を運営に取り入れ改善できるように来訪されたときに率直な意見を取り入れている。職員とのつきあいから察することも多い。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関して利用者の実情を直に知っている現場の職員の意見を聞いている。働く意欲の向上や質の確保につなげている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、可能な限り、管理者、職員の努力や実情に応じて賞与に反映したり、職員の処遇に反映している。向上心に繋がるよう環境にも気をつけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が働きながら必要な技術や知識が向上できるように全体的な勉強会や個々の指導に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、全国グループホーム協会に入会し、質の向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			第2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階は、特に本人の気持ちや不安等に耳を傾けて、職員全体で気持ちの理解に努めている。面談やアセスメントなどで本人の声に耳を傾けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立ち、家族自身の声に耳を傾けて関係性をつくっている。家族の困っていることにも対応したいという気持ちを全職員で共有しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の本人、家族の実情や必要に応じて納得ができるように、段階的に支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護する人とされる人の関係でなく、一緒に過ごすという感覚をもって関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族が支援している、されているという一方的な関係でなく、本人と家族の橋渡しや、共に支え合う関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人やかつての隣人などが訪ねて来られたり、リハビリのためや診察のために通院して知り合いと会話したり、家族に会いに家に帰ったりして関係が途切れないようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がともに助け合い利用者職員が支え合えるように支援している。新聞を読んだりテレビを見たりする時間も居間や食堂で過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			第2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退所しても、相談があればアドバイスできるように心掛けている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が一人ひとりの思いや意向に関心をもって把握しようと取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの一日の暮らしについて本人の総合的な状況を見落とさず職員間で共有できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の暮らしについて本人の総合的な状況を見落とさず職員間で共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は介護する側にとっての課題でなく本人がよりよく暮らすための課題やケアのあり方を考えている。変化に応じて現状に合うように見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の記録を介護職員が記入している。職員間で共有しさらに介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の家族の状況やその時々生じるニーズに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			第2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して生活を継続してもらえるように友人や近所の方の来苑、地域の運動会、老人会の鈴虫の巣づくりに参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	経営母体の森本医院には毎日密に連絡をとり健康状態を主治医に一人ひとり把握してもらっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常の関わりで気がついたことを看護師に相談したり主治医に相談したり、平日毎日通院し異常があれば診察を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院は心身にダメージをもたらすので、安心して早期に退院できるように関係者と情報交換している。また、お見舞いをかねて時々様子を職員や管理者が見に行くこともある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	“重度化した場合の指針について”母体である協力医院の主治医や看護師、事業所の職員や管理者が本人や家族の思いや意思に沿うように、安心した最期を迎えられるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変した時には、常に健康状態を報告したり、主治医に診察してもらったり、適切に指示をもらえるような体制を構築している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害はいつおこるか予想できていないために利用者の状況を踏まえて避難誘導ができるように実践的な取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			第2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の情報収集や外部の情報の連携をする場合にも個人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように職員が常に話し合い、すべての職員が利用者の誇りやプライバシーを尊重するよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を実現できるように、職員が利用者の気持ちに気づけるように日頃から交流を親密にし、生活歴も把握し希望や思いに気づけるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合優先にならず、一人ひとりのペースを大切にし、希望に沿って支援できるように体制を整え、全体行動が苦手な人や嫌がる人にも希望に沿えるよう耳を傾けるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みや家族がもってきてくれたものを自分でちゃんときれいな人には、介助しながら身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事には一人ひとりの好みもあるので苦手なものを家族や本人からお聞きしながら、また入居して食事介助等をし好みに気づくこともある。きぬさや、エンドウ豆などのすじ取りなど手伝えることはやってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事量や水分摂取、排泄を日々チェックして体調やバランスに注意している。異常があれば病院に報告し指示をもらうようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアができない時は洗面所に誘導したり介助して口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			第2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿を日々チェックし個人の排尿排便を把握し、できるだけ声かけしたり、誘導したりしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな利用者が多いので食物繊維や乳製品、バナナなど果物を食事につけて出している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆっくりと入浴するのが好きな人は最期に十分時間をとって入浴介助している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間はゆっくりと眠れるように日中は食堂や居間や中庭で楽しく過ごしてもらえるように支援している。また、一人で部屋で横になりたい方は無理強いをせずに休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬している薬や塗り薬の効能用途を理解し、処方の変更については全員が理解できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者にはなるべく自宅で生活していた時や以前から好きだった編み物や俳句などを続けることができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者一人ひとりのその日の希望に沿って野外に出かけるよう支援している。同一法人の運営する医療機関に行った際、多くの地域の方が利用者に声をかけてくれる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			第2ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金規定で1万円以上は預からないこととしている。自分でお金を所持してる場合にも家族と相談している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族からの電話でやりとりする手伝いをしたり交流できるように支援している。携帯電話で家族と連絡する方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間である場所は刺激の強いようなものは避けている。季節の飾りつけなどで季節を感じてもらい、居心地良く過ごすことができるよう支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では気の合う人と団欒を楽しんだり、一人で折り紙や編み物楽しんだりできるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自分の使い慣れたものをなるべく持って来れる人は持ってきていただいている。本人が落ち着けるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの能力に応じ、シルバーカーや歩行器で歩ける人は積極的に使ってもらったり手すりを増やしたりしている。		